

評価シート（年度評価）

名古屋市青少年文化センターの管理運営状況

1 基本情報 <所管局:観光文化交流局>

指定管理者	名古屋市文化振興事業団・日本管財グループ		
主な業務内容	名古屋市青少年文化センターの管理		
評価対象期間	令和5年4月～令和6年3月	指定管理期間	平成30年4月～令和7年3月

2 評価結果

評価項目			評価区分	特記事項
1 施設利用	(1) 法令等の遵守	法令等を遵守しているか。	○	
	(2) 利用料金	利用料金は適切に管理されているか。	○	
2 職員体制	(1) 職員体制	職員の配置等体制及び研修が適切に保たれているか。	○	
3 維持管理	(1) 施設の維持管理	建物・設備が適切に維持管理されているか。	○	
	(2) 舞台設備の維持管理	舞台設備が適切に維持管理されているか。	○	
	(3) 再委託業務	再委託した業務が適正に履行されているか。	○	
	(4) 備品等物品の管理	備品等物品が適切に管理されているか。	○	
4 サービス	(1) 利用実績	当初の計画通りの利用実績が達成されているか。	—	・天井等落下防止対策工事のため1年間の休館
	(2) 事業計画実施状況	提案した計画通り実施されているか。	○	
	(3) 提案事業	提案した計画通り実施されているか。	○	
	(4) 広報・PRの実施	各種媒体による情報提供が適切に実施されているか。	○	
	(5) 利用者満足度・苦情・要望の把握・対応	利用者の満足度、苦情・要望を受けて、迅速に対応できているか。	○	
5 経費	(1) 執行状況	経費が適切に管理されているか。	○	

【総合評価】

所管局のコメント・特記事項等
令和5年度は天井等落下防止対策工事のため、ホールを含む施設の一部は利用を休止していたが、地域の福祉施設等に経験の浅い若手アーティストを派遣し、若手アーティストの育成を図るとともに、パフォーマンスに触れる機会の少ない施設利用者へのアウトリーチ事業を新たに行った点が評価できる。 なお、利用実績については、ホールが工事休館していたため評価を実施することが困難であることから、評価しないものとする。

施設の現状

青少年文化センター

施設の現状	施設概要							
	芸術文化の創造及び芸術文化活動の交流の場を市民に提供することにより、青少年の芸術文化の振興に寄与するため設置された施設です。具体的には、ホールや練習室等施設の貸出や、青少年交流のためのオープンスペースの運営等を行っています。また、鑑賞機会や活動の場を提供する主催事業を実施しています。							
	市の収支状況(千円)（5年度決算(見込)額）							
	支出			収入				
	指定管理料	その他	計	使用料	その他特定財源	一般財源	計	
	119,982	96,263	216,245	13	143,634	72,598	216,245	11,719
	特記事項							
管理運営指標の状況	取組状況							
	指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	利用率(ホール)		%	53.6	66.8	84.7	—	
	収支率		%	84.0	79.8	98.2	69.7	
	特記事項							
	令和5年4月1日～令和6年8月31日まで工事休館(ホール・リハーサル室・研修室)							

※支出のうち「その他」欄は、経常修繕費等を記載

評価シート（指定期間を通じた評価）

名古屋市青少年文化センターにおける指定管理者の管理運営実績

1 基本情報

<所管局：観光文化交流局>

指定管理者	公益財団法人名古屋市文化振興事業団		
主な業務内容	名古屋市青少年文化センターの管理		
評価対象期間	平成 30 年 4 月～令和 6 年 3 月	指定管理期間	平成 30 年 4 月～令和 7 年 3 月

2 管理運営状況（評価結果の推移）

評価項目	評価区分						特記事項
	平成 30 年 度	令和 元 年 度	令和 2 年 度	令和 3 年 度	令和 4 年 度	令和 5 年 度	
1 施設利用							
(1) 法令等の順守	○	○	○	○	○	○	
(2) 利用料金	○	○	○	○	○	○	
2 職員体制							
(1) 職員体制	○	○	○	○	○	○	
3 維持管理							
(1) 施設の維持管理	○	○	○	○	○	○	
(2) 再委託業務	○	○	○	○	○	○	
(3) 備品等物品の管理	○	○	○	○	○	○	
4 サービス							・ ホール利用率 96.5%で、対計画値比 4.2 ポイント増(H30)
(1) 利用実績	◎	◎	—	—	—	—	・ ホール利用率 96.5%（1 月末時点）で、対計画値比 4.2 ポイント増(R1)
(2) 事業計画実施状況	○	○	◎	○	○	○	・ 科学館と連携してミュージックショーを開催し、全国にアピールできる事業を実施した(R1)
(3) 提案事業	○	◎	○	○	○	○	・ 割引制度を案内し、制度利用件数は年間目標の3倍以上となった。(R2)
(4) 広報・PRの実施	○	○	○	○	○	○	・ 天井脱落対策工事のため休館。(R5)
(5) 利用者満足度・苦情・要望の把握・対応	○	○	○	○	○	○	
5 経費							
(1) 執行状況	○	○	○	○	○	○	

年度ごとの総合評価（所管局のコメント・特記事項等）	
平成 30 年度	ホールの利用キャンセルがあった際に、新たな利用獲得のため興行会社等へ積極的に営業活動を行うとともに、直前の練習利用の受け入れや、利用者からの要望に基づき休館日の利用受付を行った。この結果、ホール利用率は96.5%と計画値・前年度実績値ともに上回った。 運営面では、「7thカフェ」のリニューアルの実施、小修繕による施設環境の整備などを行い、利用者サービスの向上に積極的に取り組んだ。 3年目となる「アートピア・ウインドアンサンブル・アカデミー」では、過去の応募状況を分析し、効果的な広報を行うことで、新規受講生の獲得に繋げることができた。
令和元 年度	利用率向上のため、競合受付後にホールの空き日一覧を作成し、興行会社へ定期的に FAX で案内する等の営業活動を行った結果、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の1月末時点でのホール利用率は96.5%と前年度に引き続き非常に高い利用率を維持した。 施設事業では、名古屋市科学館と連携してイギリスの伝説的ロックバンド「QUEEN」をテーマにしたミュージックショーを開催した。チケット発売前から注目を集め、全国から問い合わせが多数あった。チケットは発売開始日に完売し、2日間で700名超の来場者があった。この事業により青少年文化センターを全国の幅広い層にアピールすることができた。
令和 2 年度	緊急事態宣言発出等に伴い利用条件が変更になった際に、全利用者に連絡をとり利用方法を説明したり、新型コロナウイルス感染症への対応を検討するための舞台の下見や打ち合わせで親身に対応するなど、利用者が安心して施設を利用できるよう努めた結果、高い利用者満足度調査を得た。 施設事業では、中止となった鑑賞型事業に代えて「アゲンストコロナ公演」を実施し、実演家や舞台関係者の活動を支援するとともに、市民に鑑賞の機会を提供し、地域の文化振興に寄与した。 なお、利用実績については、感染症の影響により評価を実施することが困難であるため、評価しないものとする。
令和 3 年度	新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、第2音楽練習室以外の施設では利用率の目標値を達成することができなかったが、キャンセルとなった利用可能枠を積極的に周知して利用率の向上に努めたほか、利用が比較的少ない時期を使って、室名表示や視覚障害者向けの点字表示をよりわかりやすいものに更新した。施設事業では、若手アーティスト向けのセルフマネジメント講座と併せて発表の機会を設けることで、文化芸術活動の創造・発信を担う青少年の育成に尽力した。

	なお、利用実績については、感染症の影響により評価を実施することが困難であるため、評価しないものとする。
令和4年度	公演プロデュース実践講座について、芸術分野や劇場に関心のある青少年に、照明や音響といった劇場に関する講座だけでなく、ワークショップなど実践型の講座を受講する機会を提供することで、劇場の仕事や文化芸術活動にかかわる人材育成に貢献した。 なお、利用実績については、感染症の影響により評価を実施することが困難であるため、評価しないものとする。
令和5年度	令和5年度は天井脱落対策工事のため、ホールを含む施設の一部は利用を休止していたが、地域の福祉施設等に経験の浅い若手アーティストを派遣し、若手アーティストの育成を図るとともに、パフォーマンスに触れる機会の少ない施設利用者へのアウトリーチ事業を新たに行った点が評価できる。 なお、利用実績については、ホールが工事休館していたため評価を実施することが困難であることから、評価しないものとする。

3 利用状況等

具体的な取り組みや成果等
ホールの利用キャンセルがあった際には、興行会社等に利用可能となった枠を積極的に周知して利用促進に努めた。新型コロナウイルス感染症の影響を受ける以前の平成30年度及び令和元年度（1月末）の施設利用率は、2年連続96.5%と高い利用率を維持した点が評価できる。

4 収支状況等

具体的な取り組みや成果等
効率的な施設運営に努め、概ね計画通りの収支率を達成した。

5 利用者の意見や満足度等

利用者の意見や満足度等の内容・推移
指定管理者として組織全体で接遇研修を積極的に行い、利用者目線の管理を行うなどサービス面の強化を図り、利用者満足度調査では概ね「満足」の回答を得た。

6 総合評価

所管局のコメント・特記事項等

施設事業では、若い世代向けにセルフマネジメントや舞台照明・音響に関する講座を開講するのに併せ、アウトリーチ事業等を実施することで発表の機会を提供しており、今後の文化芸術を担っていく若い世代の育成に注力している点が評価できる。

また、視覚障害者に向けて室名表示や視覚障害者向けの点字表示をよりわかりやすいものに更新する等、利用者に寄り添った対応が評価できる。